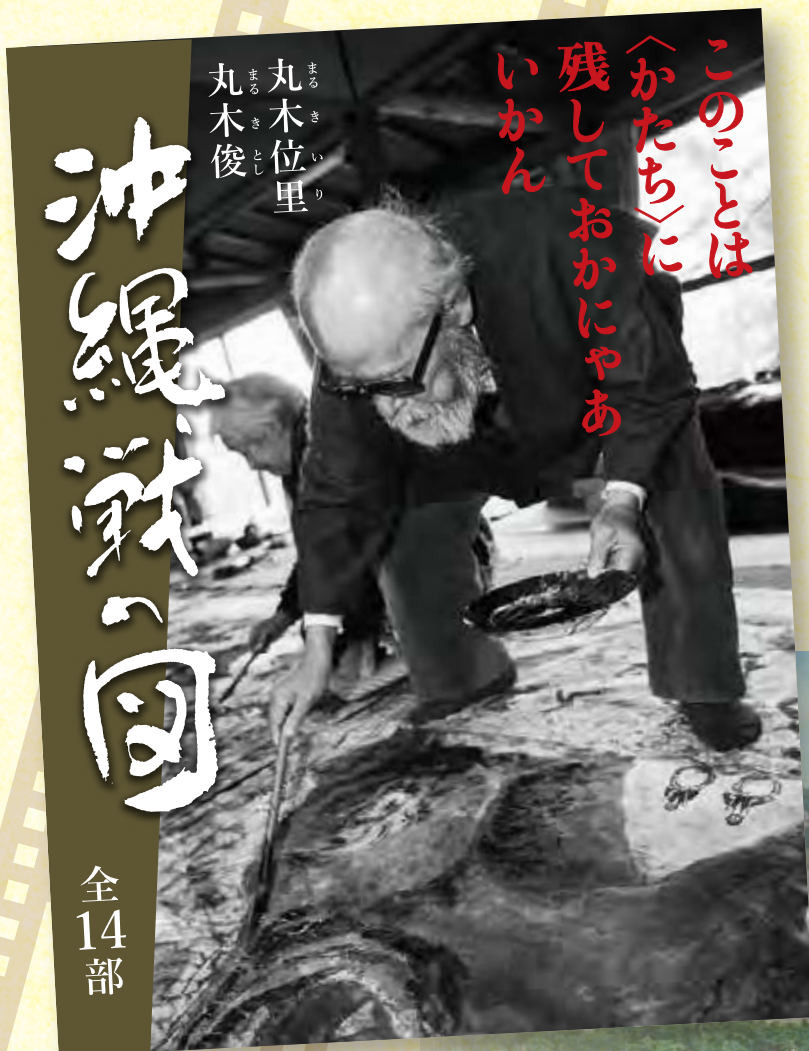




第26回

むさしの憲法市民フォーラム

「今 沖縄を見つめ、日本を考える」



故新崎盛暉沖縄大学名誉教授は、「日本が平和国家だとする虚構は、沖縄を犠牲にすることによって成り立っている」とされた。本土に暮らす私たちは、沖縄が日本の都合で踏みにじられ、虐げられてきた事実、あまりにも無関心で、無頓着だったのではないだろうか。

今回、戦争準備が急ピッチに進む沖縄の最前線で取材する阿部岳さんのお話と、沖縄戦の悲劇に向き合った丸木画伯夫妻のドキュメンタリー映画を通して、改めて沖縄を見つめ直し、私たちの国日本の未来を考えたい。



2024年

5月5日(祝日・日)

午後6時15分開場 6時30分開会

会場：武蔵野スイングホール 2階ホール

参加費：1000円(高校生以下・障がい者無料)

主催：むさしの憲法市民フォーラム

連絡先：0422-20-9031(高木)

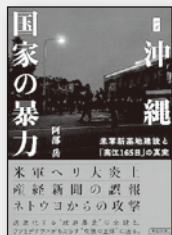


要予約 (裏面の用紙でお申し込みください)

【お話】 午後6時35分～7時35分

「今 沖縄で何が起こっているか」

今、琉球弧の島々では、「台湾有事は日本有事」の掛け声の下、中国本土を射程に含むミサイル基地や自衛隊基地が次々と建設され、住民の避難訓練が日常化し、「戦争前夜」という状況に置かれている。沖縄で活躍する第一線のジャーナリストである阿部岳さんから、「今、沖縄で何が起こっているか」を聞く。



阿部 岳 さん (沖縄タイムス編集委員)

1974年東京生まれ。上智大学卒業後、97年に沖縄タイムス入社。現在、同社編集委員を務める。週刊金曜日でもコラムを執筆。著書として「国家の暴力ー現場記者が見た『高江165日』の真実」



【映画】 午後7時45分～9時15分

丸木位里 丸木俊 **沖縄戦の国** 全14部

《原爆の国》15部で名高い丸木位里・丸木俊画伯は、「沖縄を描くことが一番戦争を描いたことになる」として晩年沖縄に通い続け、地上戦の現場に立ち体験者の話に全身全霊を傾け、その証言に〈かたち〉を与えていった。この映画は丸木夫妻の制作と、それに協力した沖縄の人たちを描くドキュメンタリーである。

監督・撮影：河邑厚徳

ナレーション：ジョン・カビラ / 山根基世

2023年 / 88分 / 日本



写真：本橋成一

本企画への参加にあたっては、事前に参加券（1000円、高校生以下・障がい者無料）をご購入いただくか、下記用紙の必要事項をご記入の上、FAX（0422-20-9031）またはメール（k-takagi@takagi-law.com）にてお申し込み下さい。定員を超過した場合は、申込書に記載された連絡先に当方から連絡します。

参加申込書 FAX 0422-20-9031

お名前	電話番号または メールアドレス
ご住所 〒	参加人数